

茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻 令和3年度後期 専攻教育点検報告書

令和4年 4月 14日

報告者 都市システム工学専攻 専攻長 原田隆郎

1. 実施日時と場所

令和4年3月18日（金）8:40～12:10, 12:50～13:00 teams オンライン会議

2. 出席者

常勤教員：信岡尚道, 原田隆郎, 山田稔, 横木裕宗, 小林薫, 熊澤貴之, 久野靖広, 平田輝満,
車谷麻緒, 榎本忠夫, 肥田剛典, 辻村壮平, 稲用隆一, 吉田友紀子, 一ノ瀬彩, 桑
原祐史, 増永英治, 理工学研究科教員：柴田傑

全常勤教員20名のうちの17名が出席

常勤教員のうちの欠席者：呉智深（長期欠勤）、遠藤克彦（クロスアポイント労働契約
による制約のため）、藤田昌史（休暇のため）

非常勤教員：金利昭

技術職員, 事務職員：なし

3. 添付資料

資料1 会議議事録（1. 専攻教育改善委員会, 2. FD研修会）

資料2 2021年度後期 学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会 議事次第

資料3 令和3年度後期 授業点検改善表集

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した, 授業アンケートの回収状況は以下のとおり.

常勤教員担当科目分： 15 科目／常勤教員担当科目総数 15

除外した科目

- ・「建築実務実習」履修者4名のため
- ・「問題発見解決実習Ⅰ～Ⅲ」「都市システム工学特別講義Ⅰ, Ⅱ」「最先端技術特論」
はいずれも履修者1名のため

前期FD未点検のためアンケート実施状況が不明の科目

- ・「サステイナビリティ最前線」「国際実践教育演習」「国内実践教育演習」「ファシリテ
ーション能力開発演習Ⅰ」「ファシリテーション能力開発演習Ⅱ」は未点検のため, ア
ンケート実施状況は不明.

非常勤教員担当科目分： 0 科目／非常勤教員担当科目総数 0

4. 2 点検した科目

社会基盤情報処理特論, 交通計画特論, 建築都市デザインスタジオⅢ, ワークショップ, 地球・海洋環境保全科学特論, 沿岸環境形成工学特論, 維持管理工学特論, 建築環境デザイン演習, 都市システム工学専攻学外実習, 建築実務実習, 最先端技術特論, 都市システム工学特別講義Ⅰ,Ⅱ, 問題発見解決実習Ⅰ～Ⅲ, 社会基盤デザイン特別演習Ⅱ, 社会基盤デザイン特別研究Ⅱ, 建築デザイン特別演習Ⅱ, 建築デザイン特別研究Ⅱ, サステイナビリティ学特別演習Ⅱ, サステイナビリティ学特別研究Ⅱ

後期に開講した専門科目の総数 22 科目中 22 科目 (100%)

なお, 前期 FD で未点検 (後期実施予定含む) の以下の 5 科目については, 開講実績が不明であり, 点検も実施されなかった。

「サステイナビリティ最前線」「国際実践教育演習」「国内実践教育演習」「ファシリテーション能力開発演習Ⅰ」「ファシリテーション能力開発演習Ⅱ」

4. 3 具体的な点検方法

後期に開講した 22 科目中 22 科目について, 以下の方法で点検を実施した。各科目の具体的な点検結果は, 資料 1 の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと。

- ・ 各科目について, 授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表等の資料に基づいて説明し, 学生アンケートでの指摘点を中心に授業方法の優れている点や改善すべき点について自己評価・議論を 2 分程度行った。
- ・ また, 専攻全科目についての成績分布状況が示された『成績分布表』を用い, 各科目の状況を確認した。
- ・ 前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について, 授業点検改善表を用いて各出席者が確認と参加教員全員から質疑応答を受け議論した。

4. 4 特別実験, 特別演習等の実施状況など

社会基盤デザイン特別演習Ⅱ, 社会基盤デザイン特別研究Ⅱ, 建築デザイン特別演習Ⅱ, 建築デザイン特別研究Ⅱ, サステイナビリティ学特別演習Ⅱ, サステイナビリティ学特別研究Ⅱの 6 科目については, まず, 「①実施内容と状況」, 「②実施の証拠と保存状況の確認」, 「③成績評価の方法」を所定の書式にまとめた報告書を点検し, 「④学生からの報告と指導への要望」を確認した。

(1) 社会基盤デザイン特別演習Ⅱ, 建築デザイン特別演習Ⅱ, サステイナビリティ学特別演習Ⅱ

①実施の状況

具体的な内容は研究テーマによって異なるが, 毎週ないしは月 2 回以上のゼミを実施し,

そこにおいて、実験技術の指導、解析技術の指導、調査技術の指導、学会発表の指導、論文投稿の指導、作品出展の指導、さらに既往研究レビュー などを行った。

②実施の証拠とその保存状況

具体的な実施内容によってことなるものの、学生がゼミの発表で用いたパワーポイントや報告書、ゼミ以外の時間における研究状況を記録した研究週報、投稿した学会原稿などが各教員によって保存されている。

③成績評価の方法

各授業担当教員が、報告内容、研究時間、研究の進捗状況、ゼミにおける後輩の指導への積極性、修得した実験技術、解析技術、調査技術、発表会におけるプレゼン技術などを総合的に判断して成績評価が行われている。

(2) 社会基盤デザイン特別研究 II, 建築デザイン特別研究 II, サステナビリティ学特別研究 II

①実施の状況

具体的な内容は研究テーマによって異なるが、毎週ないしは月 2 回以上のゼミを実施し、そこにおいて、実験技術の指導、解析技術の指導、調査技術の指導、学会発表の指導、論文投稿の指導、さらに既往研究レビュー などを行った。

②実施の証拠とその保存状況

具体的な実施内容によってことなるものの、学生がゼミの発表で用いたパワーポイントや報告書、ゼミ以外の時間における研究状況を記録した研究週報、投稿した学会原稿などが各教員によって保存されている。

③成績評価の方法

各授業担当教員が、報告内容、研究時間、研究の進捗状況、ゼミにおける後輩の指導への積極性、修得した実験技術、解析技術、調査技術、発表会におけるプレゼン技術などを総合的に判断して成績評価が行われている。

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

- ・ 点検を行った全ての科目において、昨年度に改善すべき問題点は、改善されていたことが確認された。

5. 2 今回の授業方法で優れている点

- ・ 建築都市デザインスタジオⅢでは、設計して施工するまでの内容を実現しており、学生にとって結果的に充実感があつたものと考えられる。
- ・ 地球・海洋環境保全科学特論では、2 コマ連続の授業としていることによって、受講者がレポートを熱心を書いてくれることにつながりその結果成績も上がった。

- ・ ワークショップでは、茨城県職員などとの企画や討論を行なったことを通して学生が要領を得てきて、ファシリテータの素養を身に付けることにつながった。
- ・ 問題発見解決実習Ⅰ～Ⅲ，都市システム工学特別講義Ⅰ，Ⅱ，最先端技術特論 については，本人が調査し，指導教員が内容について議論するような形式で授業を進めた。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

- ・ 各科目とも特段の問題はないことが確認された。
- ・ 建築実務実習では，コロナの影響で参加できない学生がいた。
- ・ 社会人学生対象の，問題発見解決実習Ⅰ～Ⅲ，都市システム工学特別講義Ⅰ，Ⅱ，最先端技術特論 では，入学を検討している人に対しオンライン実施をアピールするとよい。

6. 教育改善活動

「R6 以降の新カリキュラムの構想」のテーマについて教育改善活動を行なった。主に，先取り履修と 6 年一貫教育について議論したところ，以下のような意見が出され検討がなされた。

- ・ 2 科目を 1 単位科目×2 とし，組み合わせ等を工夫してシンプル化をする必要がある。学生理解力低下および必要となる内容の増加との関係，やりたい事と教員のマンパワーとの関係を調整する必要がある。
- ・ 大学院の横断科目の位置づけや，サステナプログラムの位置づけを分解し，社会基盤・建築の 2 つの DP に割り振ることは重要。
- ・ 建築プログラムは現状，ほぼ全部が必修であるが，社会基盤プログラムも全て枝を削ってほぼ全部が必修になっているような形を考えてみてはどうか。
これらの意見や議論を参考に，今後，教員間で授業科目のスリム化，共通科目と横断科目の位置付けなどを整理し，学科・専攻でさらに新カリキュラムを検討していく方針でまとまった。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を teams 上に備え，学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学協同カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

現地における土木と建築の融合の話題を都市システム工学序論の中で継続して取り入れること，さらに取り扱う量の拡大を検討することが確認された。新しい情報社会に合わせた内容を情報科目に盛り込むことに関しては，R6 年度からスタートする新しいカリキュラムに取り入れていくことを確認した。

9. その他

特になし.